

授業科目名	多文化社会の社会教育	担当教員	姚 瑶
必修の区分	選択		
単位数	2 単位		
授業の方法	講義		
開講年次	2 年 第 3 クォーター		
講義内容	国境を越えた移動が増えるにつれ、多文化共生は多くの人びとにとって身近な問題となりつつある。日本も決して例外ではない。 この講座では、日本社会における多文化の問題を概観し、共生へ向けた取り組みを学んでいく。多文化共生への対応は、その地域の持つ特性や外国人住民の居住の状況、また時代の変化によっても変わっていく。国内外の先進的な事例から、自分の住む地域で応用できることと、変えていく必要がある点について考えていく。		
到達目標	日本社会の急速な多文化化の状況を受けて、学習者一人一人が社会の担い手としてこれからの日本の多文化共生を模索し、新たな社会の構築に関与できるようになるための考える力と議論する力を身につける。 (1) 日本社会における多文化の問題について、自分の意見を論理的に述べる ことができる (2) それぞれの地域が行っている取り組みから、多文化共生へのヒントを得ることができる (3) 自分が住む地域に当てはめた場合、どの程度応用可能かを予測することができる		
授業計画	1 オリエンテーション ー本授業の目的・目標、評価基準、課題の詳細  2 多文化共生社会をめぐる課題  3 多文化共生社会と人の移動 ー「移民時代」の多文化共生  4 世界の「多文化共生」を考える① ー外国の多文化政策の事例（グループディスカッション）  5 世界の「多文化共生」を考える② （中間課題） ー外国の多文化政策の事例（グループ発表）  6 多文化共生社会と地域の外国人① ー外国人との地域づくり  7 多文化共生社会と地域の外国人② ー地域の日本語教育		

	<p>8 多文化共生社会と地域の外国人③ ーやさしい日本語</p> <p>9 多文化共生社会と子どもたち① ー外国にルーツを持つ子どもの教育</p> <p>10 多文化共生社会と子どもたち② ー外国にルーツを持つ子どもの母語とアイデンティティ</p> <p>11 日本の「多文化共生」を考える① ー多文化共生社会の実現に向けて（グループディスカッション）</p> <p>12 日本の「多文化共生」を考える② （最終課題） ー多文化共生社会の実現に向けて（グループ発表）</p>
事前・事後 学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業のテーマに関連する書籍などの情報を収集し、目を通しておくこと</li> <li>・課題がある時、必ず準備しておくこと</li> </ul>
テキスト	特定の教科書は定めていませんが、随時参考資料をご紹介します。
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多文化共生のための市民性教育研究会編著（2020）『多文化共生のためのシティズンシップ教育実践ハンドブック』明石書店</li> <li>・徳田剛、二階堂裕子、魁生由美子編著（2023）『地方発多文化共生の仕組みづくり』晃洋書房</li> <li>・松永典子編著（2018）『学校と子ども、保護者をめぐる多文化・多様性理解ハンドブック』金木犀舎</li> </ul>
成績評価 の 基 準	<p>出席及び受講態度（授業中の議論への貢献等）（40%）</p> <p>中間課題発表（30%）</p> <p>最終課題発表（30%）</p>
履修上の注 意 履修要件	<p>原則として、20 分を超える遅刻の場合は、欠席扱いとする。</p> <p>欠席回数が 4 回以上（4 回を含む）の学生は成績評価の対象外とし、単位を修得できない。</p>
実践的教育	該当しない。
備考欄	履修定員超過の場合は、第 1 回 第 2 回の講義に出席したものを優先する。それでも決まらなければ、抽選を行う。